

平成 29 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	呉市立吉浦小学校		
学校長氏名	枝長 真智子	栄養教諭氏名	小羽田 宏子
職員数	25名	児童・生徒数	347名

1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

児童は、食に関する知識は豊富で、授業の時の質問やクイズなどにもしっかり答えている。自分にとっての望ましい食習慣について、理解はできている。しかし、実践に至っていない児童もみられる。

また、野菜や豆製品、魚などの苦手な食品を少しずつでも頑張っ食べようとする意識が低い児童がいる。

毎日朝ごはんを食べることについては、目標値である 100%まであとわずかである。朝食を食べていない児童が固定化されている。

2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

元気な心と体を育む規則正しい生活と望ましい食習慣の形成

一さわやかな朝のスタートをするために「毎日朝ごはんを食べる子 100%」を目指す一

- 「朝ごはんを食べた」児童 100%
- 「朝ごはんを食べることは大切だと思う」肯定評価 100%
- 「給食の時間が楽しい」肯定評価 95%以上

3 食育の目標に対する具体的な取組

【取組 1】（テーマ）「触・植・食」活動の取組

吉浦小学校では食育の中心活動として、各学年の発達段階に応じて植物に触れ、育てて食べる「触・植・食」活動を行っている。その活動を通して、食べ物を育てることの大変さを知り、食べ物に対する感謝の気持ちを育てるとともに、食に関する関心を高めることをねらいとしている。

1年生……とうもろこしを栽培して食べた。

2年生……ミニトマト オクラ ししとう
の中から選んで栽培した。

3年生……地域の漁協の方にお世話して
いただいて貝掘りをした。枝
豆、エコねぎを栽培して食べた。

4年生……なす、ピーマンを栽培してピザを作って食べた。

5年生……バケツ稲を栽培した。地域のみそやさんに教えていただいてみそ造りをし、家庭科で吉浦元気汁を作って食べた。

6年生……中学 2 年生と一緒にさつまいもを栽培した。栽培したさつまいもを使って、地域の吉浦女性会の方と一緒に芋だんごを作って食べた。

このように各学年の発達段階に合わせて作物に触れたり、栽培したり、食べたりすることにより、食べ物に対する感謝の気持ちをもつとともに、地域の方と触れ合いながらいろいろなことを教えていただくことによって、さらに郷土を愛する気持ちが育っている。



【取組2】(テーマ) 各教科における栄養教諭の取組

1 朝ごはんの大切さ

呉市では食育について指導案や指導実践例など様々な資料をまとめて冊子にした「呉の食育指導資料集」が各学校に配付され、食育の取組に活用されている。

その「呉の食育指導資料集」の中から6年生対象の家庭科学習指導案「朝食を考えよう」を活用し、児童に朝食の大切さについて指導した。自分の日頃の朝食を振り返り、問題点に気づかせたり、朝食を取れないわけ(時間がない、食欲がないなど)を考えさせたりした。また、朝食を食べることによって頭、体、おなかのスイッチが入ることについて指導した。そして、今後、家庭科で朝食を作る時に気を付ける事についても指導した。児童は熱心に聞いており「今度から朝ごはんを食べるようにしよう。」「自分でできることはやるようにしよう。」などの感想が聞かれた。



2 お米博士になろう

5年生児童が自分たちが育てている稲について詳しく知るため、パワーポイントや米のぬいぐるみを用いて、米の漢字の由来、構造(もみや胚芽)、栄養価や給食での役割などについて指導した。日本人の主食である米(ごはん)に興味をもつと共に、今後、家庭科でごはんを炊く授業につなげ、興味が湧くように指導した。児童の感想にも「お米の漢字の意味を初めて知った。」「今度ご飯を炊くのが楽しみだ。」「給食に呉のお米も使われることがあるのを初めて知った。」などとあり、米に対しての関心を高めることができた。



4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

吉浦小学校では「100万食プロジェクト」に関わって、次のような取組を通して啓発を行った。

○ぱくぱく通信(食育通信)に「ひろしま給食100万食プロジェクト」の趣旨やレシピを掲載した。

○掲示板の給食コーナーに「ひろしま給食100万食プロジェクト」について掲示した。

○夏休みに行った親子料理教室において「ひろしま給食100万食プロジェクト」のメニューを調理した。

○ひろしま給食100万食の献立の日に試食会を行い、保護者や地域の方に試食していただいた。

○地域のスーパーマーケットに受賞したメニューを置いていただいた。

○今年度、呉市では「ひろしま給食100万食」に応募したレシピの中から「熱く燃えろ!!Cスープ」に合うレシピを選び、呉市独自のメニューを決定し、全国学校給食週間で呉市の統一献立として取り入れた。



5 取組に対する成果と課題

【成果】

児童は、食についての知識は豊富で、授業の内容もきちんと理解している。また、担任や栄養教諭の食に関する質問に対して、積極的にしっかり答える児童が多くなった。

給食コーナーの掲示や給食放送も楽しみにしており、クイズや掲載している内容についてもよく把握している。校内に設置している給食ポストには各教室からの意見が多く寄せられ、給食に関して関心が高いことが分かる。

吉浦小学校の食育の特徴の1つである「吉浦元気汁」についても、自分たちの学校で考えられ、給食にも取り入れられていることに誇りをもち、給食委員会が各学級を訪問して「吉浦元気汁を飲もう。」と啓発している。クラブ活動や親子料理教室でも、元気汁を作りたいと希望する児童が多く、毎年食育通信にレシピを掲載している。

「さわやかカード」のアンケート結果では、「毎日朝ごはんを食べた。」と答えた児童は1回目96.8%、2回目97.1%、3回目95.0%であり、朝ごはんを食べる子どもが100%に近づいている。3回目に数値が下がったことについては、かぜやインフルエンザなどにより体調がすぐれない児童が多かったためと考えられる。

また、「触・植・食」体験後に児童に行ったアンケートの結果では、「朝食を食べることは大切だと思う。」と答えた児童は1回目96.8%→2回目98.5%、「給食の時間が楽しい。」と答えた児童は1回目94.8%→2回目95.0%と肯定的な回答が多く、「触・植・食」体験後に数値が上がっている。たくさんの児童が「触・植・食」体験を通して、食についての関心を高めていることが分かる。

「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組では、給食学習会（試食会）、親子料理教室、給食掲示、ぱくぱく通信（食育通信）への掲載、給食放送、地域のスーパーマーケットへレシピを置いてもらうことなどの取組により児童、家庭、地域に啓発することができた。

このように、さまざまな取組の結果、児童は食についての関心を高め、よりよい生活習慣の大切さについても理解できている。さらに、その知識を自分の生活習慣の改善につなげようとする意欲をもてるようになってきた。保護者、地域にも、食の大切さについて啓発することができた。

【課題】

食育について、多くの児童が肯定的な評価ではあるが、目標値を達成していない項目もある。また、食べ物について知識としては分かっているが、実践につなげ、行動に変容が見られる取組にしていく必要がある。

6 今後の取組に向けた改善方策について

食に関する興味や知識として得たことを自分の生活習慣の改善につなげられるよう、機会を捉えてふり返りをさせるとともに、「触・植・食」体験、食育の授業、給食放送、食育の掲示などの取組をさらに充実させる。

また、食物を作る大変さを実感することを通して、食べ物に感謝する心をもったり、健康のためにはどんな食べ方をするのがよいかなどについて考えたりする機会を増やす。食育の指導には、家庭や地域の協力が欠かせない。食育通信などを通して情報発信を充実させることで、さらに連携を深めていくきっかけとしたい。吉浦小学校の食育の柱である「毎日朝ごはんを食べる子100%」を目指して、さらに全教職員と連携し共通理解を図りながら教育活動全体で計画的に食育の指導を進める。